

事例6 荒廃した植生の回復に向けた取組

(近畿中国森林管理局 三重森林管理署)



- 三重県多気郡(たきぐん)大台町(おおだいちょう) 大杉谷(おおすぎだに) 国有林
- (左) 大台ヶ原のミヤコザサと立ち枯れしたトウヒ(平成20年7月)
- (右) 植生保護柵内で成長したトウヒ(令和4年10月)

三重森林管理署の大杉谷国有林は、標高差が1,400m近くあり暖温帯から亜高山帯まで多様な森林が連続してみられる学術的に貴重な地域で、森林生態系保護地域に設定していますが、昭和30年代の台風による大規模な風倒被害やニホンジカの個体数増加により森林が衰退し、未立木地が拡大しました。

このため、平成20年度から5年間にわたり被害状況の調査を行い、平成24年度に対策指針を策定し、植生保護柵等の設置、大杉谷国有林で採取した種から育てた苗木の植栽、シカの捕獲等に取り組んできました。

令和4年度は、環境省近畿地方環境事務所と連携して約30名のボランティアの方々と60本のトウヒ等の幹に保護ネットを巻いたほか、約0.5haの未立木地への苗木の植栽や、85頭のニホンジカの捕獲を行いました。

これまでの取組により、植生保護柵等を設置した箇所でトウヒやヒノキ等の生育が確認されています。

引き続き、関係機関と連携し、荒廃した植生の回復に向けて取り組んでいきます。